

# D 恐竜 Dinosaurs

恐竜博物館ニュース

第6号

2002.7.7

福井県立恐竜博物館

## 特集：特別展「眠りからさめた福井の恐竜たち」展の開催

目次 ある晴れがましい一日-入館100万人達成に立ち会えて-/日本古生物学会開催報告...2-3 特集「特別展 眠りからさめた福井の恐竜たち」...4-5 研究ノート/博物館バックヤード...6 展示標本紹介(イチョウ、始祖鳥)/教育普及活動...7 行事案内/ダイノメイト/編集後記...8



# ある晴れがましい一日

## —入館100万人達成に立ち会えて—

2002年5月26日の日曜日、当福井県立恐竜博物館は開館以来100万人目のお客様を迎えることができました。記念すべきそのお客様は、愛知県半田市の平田祥兵君(小3)です。平田さんの家族4人は、博物館に入った時に職員からこのことを告げられ、びっくりしていました。



濱田館長と一緒に記念のくす玉を割りました。



それは、6月も間近になった5月26日のことでした。時期外れの暑さの中、100万人目のお客様を迎えることができました。

その記念すべき100万人目に当たっていたのは、愛知県半田市から車を駆って一家でやってこ

られた平田有史さんが御主人の4人連れでした。見守られる中、100万人目だと告げられた家族の皆さんは、くす玉割りのタイミングがずれてしまい、びっくりした緊張ぶりが何とはなくユーモラスな雰囲気をかもし出すのに役立っていて、皆さんニコニコ顔でした。聞いてみると、長男の祥兵君はこの恐竜博物館がすっかりお気に入り、半年程前にももう入館していただいていたいわばリピーターの恐竜フリークだとのことで、周りの人たちもなる程と肯きあったものです。

ここで、一通り家族の皆さんのプロフィールなど紹介しておくことにしましょう。祥兵君は当年にとって8歳、小学3年生にな

って間もない、自然史に造詣の深い少年で、車の中にまで“恐竜図鑑”を携帯しているというほどです。弟の義人君も3歳とかで、お兄さんとは全く違った文学志望だそうで、温和しく口数も少ない子供さんという印象でした。

インタビューのあとお父さんは、専らスポークスマンという立場でしたが、館長や記者諸君の質問にもテキパキと対応し、子供さんらの性格もきちんと認識した“しっかり者”の感じを強く受けました。一方、お母さんの美紀さんは“学校の先生”タイプの優しさの中に芯のあるなかなかの御婦人で、100万人目の晴れがましい一家の代表格といった雰囲気、一家揃って役者という印象をもったものです。

偶然というには、余りにできすぎというのでしょうか、半年経ってまた揃って来館、とは本当に驚きでした。館の関係者やマスコミの人達にもなかなかの受け方で、館長の私にとっても思い出深いものとなりました。思い出といえば、くす玉割りのお祝いもちろそうでしたが、祥兵君が代表して館の立派な図録を受け、義人君は大きくて可愛い恐竜のぬいぐるみを抱くようにして受けとってもらえたのも素晴らしいことでした。最後にお母さんへ美しく立派な花束が贈られ、盛大な拍手が起ってイベントは終了しました。

その日の夕刻、そのお祝いの風景がテレビに流れたり、翌朝の報道各紙に和やかな家族の記念写真が出るなど、地方にとっては楽しい話題を生んだことも、とても良かったと専らの評判でした。

ところで、100万人達成にまつわる話題はこの辺りでとめ、楽しい場として好評をいただいている福井県立恐竜博物館のお話に移ることにしましょう。この恐竜博物館は広大な敷地を誇る勝山市長尾山総合公園の一角を占めていて、恐竜エキスがぶくい2000の際に60万余の人々が入館してくださったのですから、“恐竜人気”の中心役を果たしたことは言うまでもありません。駐車場調べでも北は北海道から南は九州まで、ほとんど全国からの県ナンバープレートを見つけることができ、子供さんの“主導”型三代ファミリーの車が圧倒的で、人気の高さを如



館長から記念品を受け取ります。展示解説書や花束、恐竜文学賞の絵本(勝山市提供)、恐竜のぬいぐるみ(恐竜博物館後援会提供)が贈られました。

# 日本古生物学会 開催報告

日本古生物学会2002年年会・総会が、6月21日(金)~23日(日)の3日間の日程で福井県立恐竜博物館において開催されました。日本古生物学会は、古生物学およびこれに関連のある学問分野の進歩・普及をはかるために、1935年(昭和10年)に設立され、日本における古生物学研究の軸としての役割を果たし続けてきました。現在では1,000名をこえる会員が、古生物学のさまざまな分野にわたって活躍しています。



今回の学会では、21日に国際シンポジウムと総会、22日に特別講演と個人講演、ポスターセッション、23日には個人講演と普及講演会が行われました。国際シンポジウムは、「環日本海地域における白亜系層序と国際対比 手取層群を中心として」と題し、中国、韓国、ロシアから招いた研究者をまじえ、熱心な討論が繰り広げられました。

特別講演は、日本古生物学会学術賞受賞記念の講演です。東北大学の千葉 聡博士が、「特殊が普遍にかわる時 フロンティア時代の生物進化」と題して講演されました。

2日間にわたり個人講演97タイトル、ポスターセッション19タイトルと、あわせて116もの講演が、ひとつのキャンセルもなく行われました。個人講演の3つの会場はどこも満席状態で、最新の研究成果がいたるところで発表されていました。ポスターセッションは特別展示室で行われ、発表自体は22日の昼だけでしたが、多くの研究者が随所で白熱した議論をしていました。

23日の普及講演会は、恐竜博物館主催、日本古生物学会共催で、一般の方々を対象として催されました。中国科学院古脊椎動物古人類研究所の董 枝明(Dong, Zhiming)教授が、「中国の恐竜化石研究百年」と題して講演されました(通訳: 国立科学博物館 富田幸光博士)。150人を超える聴衆は、スライドを使って熱く語られる董先生の話に聞き入っていました。



今回の学会には、総勢329名が参加しましたが、学会役員の方の話では、東京や京都を除いて、地方の博物館での開催としては異例の数とのことでした。なかでも学生や院生といった若手研究者や学会員以外の方々の参加が多かったことは特筆すべき点であり、これからの古生物研究の明るい未来を垣間見た思いです。

最後に、学会の開催にあたってご協力いただいた多くの方々にお礼を申し上げます。

(野田芳和・後藤道治)



それぞれが記念の品を手にとり、カメラの前に並びます。

実に物語っていたと言えるでしょう。

恐竜博物館は、エキスポ終了後その後始末や駐車場造りなどに少し時間がかかり、平成12年10月7日ようやく再オープンになりました。高さ40mにもなる卵形ドームが主展示場で、そこには34体に及ぶ全身骨格復元像がところ狭しと立ち並び、長いエスカレータで地下深く降って初めて“地中”の実感を味わえるなど、仕掛けにも様々な工夫が凝らされています。遠目にもこの銀傘ドームの偉容はすぐに見分けられ、緑の森に囲まれた丘の上に立派なランドマークをなしています。小松便で名古屋上空周りのコースを飛ぶときは、ほぼ真上を通りますので、それと知っている人には、アッ、アレだ!と、白山の偉容をバックにすぐに気付くはずですが、もっとも、昼間の上天気ならという条件は付きますが...

それにしても、このような立派なランドマーク施設の出現は、県の文化施設として、春江町に恐竜博物館のほぼ1年前に完成した愛称「エンゼルランド」と呼ばれる児童科学館と共に、県民のみならず、全国から多くの人を集めることが今後ますますの楽しみです。県内には越前町立「越前かにミュージアム」もほぼ同時にオープンしました。私達の長尾山総合公園もその後次第に整備され、野外で勝山市の恐竜発掘地からの割り石を積み上げ子供さん中心に、「石割り」体験をプログラムに組み入れるなど盛り沢山の行事が計画されつつあります。平田さんの御家族も参加されるよう、心から期待しているところです。

(福井県立恐竜博物館館長 濱田隆士)



その後、取材陣から質問攻めにされてしまいました。恐竜好きの祥兵君には良い思い出になったようです。

# 眠りからさめた

## ——恐竜化石調査成果



今年の夏休みに上記の特別展が開催されます。この特別展は、「恐竜化石調査成果」「収蔵庫の化石たち」「キッズコーナー」の3つのゾーンで構成されています。「恐竜化石調査成果」では、福井県勝山市北谷における恐竜化石調査で発見された様々な化石を展示し、その研究成果をわかりやすく解説します。「収蔵庫の化石たち」

では、ふだん公開されていない収蔵庫の化石の数々を紹介します。「キッズコーナー」では、恐竜骨格組立を実施します。それぞれ3つのゾーンがつながって関連し、見て、学んで、体験する展示になっています。特別展のみどころのいくつかを紹介しましょう。

### 環境復元ジオラマ

ここでは、福井県勝山市北谷から発見された肉食恐竜フクイラプトル・キタダニエンスと草食恐竜イグアノドン類（通称フクイリュウ）の模型と、研究成果から復元された背景画を中心に、白亜紀前期（約1億2000万年前）の手取層群の環境を復元しています。フクイラプトルやフクイリュウの成長段階を示す化石も見つかっており、群れを作っていたようですが背景画に描かれています。また、フクイラプトルとフクイリュウの模型も精巧に作られているもので、一見の価値があります。

北谷発掘現場の復元図



### フクイラプトルとフクイリュウについて

フクイラプトルとフクイリュウの全身骨格が復元されたのは、恐竜化石調査の成果の一つです。恐竜にどのようにして名前が付けられたのか、どんな種類の恐竜に近いのか、など収蔵庫にある恐竜化石と比較しながら、学べるようになっています。

### アクロカントサウルスの全身骨格



アクロカントサウルスは全長12mの大型肉食恐竜です。ティラノサウルス・レックスは白亜紀後期の最大級の肉食恐竜として有名ですが、アクロカントサウルスは白亜紀前期の最大級の肉食恐竜でした。特徴としては首から

背中にかけて、棘突起が伸びていることがあげられます。勝山市北谷から発見されたフクイラプトルとほぼ同じ時代に北アメリカ大陸に生きていました。さらに、系統的にもフクイラプトルと近縁であると考えられています。



アクロカントサウルス全身骨格

### “化石鉱脈（ラガシュテッテン）”

保存のよい化石がたくさん含まれている地層や化石の産状など古生物学的に非常に価値の高い情報をもつものを“化石鉱脈（ラガシュテッテン）”と呼びます。ここでは、恐竜時代のラガシュテッテンであるドイツのゾルンホーフェンとブラジルのサンタナの化石を取り上げます。

# 福井の恐竜たち

と収蔵庫の化石

## 生命の多様性

ここでは収蔵庫で出番を待っている多くの化石を展示します。太古に栄えた三葉虫やアンモナイトなどの海にすむ無脊椎動物、魚類、鳥類、哺乳類、植物など、世界各国から収集された標本を展示する予定です。実物標本のすばらしさが伝わるとと思います。

## 日本の新生代の化石たち

ここでは日本の新生代の様々な化石を取り上げます。福井のコーナーでは、越前海岸・丹生山地と高浜町の約2000～1600万年前（第三紀中新世）の地層から発見されたシカやイノシシなどの脊椎動物、ピカリアなどの貝、植物、足跡などの化石が展示されます。特に、越前村大味の偶蹄類の足跡化石や越前海岸で発見されたエチゼンオオスッポンの複製標本などは、初めて公開されるものです。さらに福井以外からも鳥取県辰巳峠、長崎県壱岐島、栃木県塩原町の植物や魚、昆虫の極めて保存の良い化石がずらりと並びます。

## “ 生きている化石 ”

ここでは、生きている化石の代表であるシーラカンスやオキナエビス、カプトガニ、メタセコイアなどの化石が展示されます。特にシーラカンスの化石は様々な時代の保存の良い化石が展示されます。



勝山産イグアノドン類（フクイリュウ）復元模型



フクイラプトル・キタダニエンスス復元模型

## こはく 琥珀を見てみよう

虫入り琥珀は映画ジュラシック・パークで有名になりました。ここでは新生代のものを中心に、バルト海沿岸地方やドミニカ共和国など世界各地の琥珀を展示し、琥珀の中に含まれている虫や植物を観察することができます。

## キッズコーナー

ここでは、「古生物学者になろう」ということで、今まで見てきたり学んできたりしたことを生かしてフクイリュウの骨格組立を体験することができます。

以上のように、実物標本、複製標本、模型標本などあわせて約400点が展示される予定です。小さな子供から大人まで楽しめるようになっております。開催期間中は1時間延長して午後6時まで開館しておりますので、どうぞ見に来てください。（寺田和雄）

会 期：平成14年7月20日(土)～9月1日(日)〔会期中無休〕  
 開館時間：午前9時～午後6時（入館は午後5時30分まで）  
 会 場：福井県立恐竜博物館3F 特別展示室  
 料 金：一 般：600円（常設展500円を含む）  
 大学・高校生：500円（常設展400円を含む）  
 中学・小学生：300円（常設展250円を含む）  
 幼 児：無料  
 30名以上の団体料金  
 （一般：500円 大学・高校生：400円 中学・小学生：250円）

中生代には小さな姿であった哺乳類は、新生代になると様々な仲間を増やし、中には大型化した種類も現れました。特に、新生代の初期にあたる暁新世から始新世の始めにかけて、私たちの知っている哺乳類のグループの祖先的なものが出現しています。これは恐竜が陸上からいなくなった後の千数百万年間の出来事です。陸上のぼっかりとあいた生活空間を哺乳類たちが占有し、そして陸から海へと進出したクジラの仲間や、空を飛ぶコウモリたちもこの時期に現れたのです。

暁新世から始新世のころの地球はとても温暖な時代で、現在の環境とは大きく異なっていました。南北の極地に氷床はなく、高緯度地域にまで温暖な環境が広がっていたことが、古植物学や古海洋学の研究から明らかにされています。新生代初期の哺乳類の進化や、その時代の暖かい地球の環境について手がかりが得られる地層が日本にもあります。日本では新生代の初期の地層が北海道と九州を中心に分布しており、それぞれからいくつかの原始的な哺乳類化石が報告されています。私は九州に分布する始新世の地層から産出する哺乳類化石について研究しています。



熊本産の裂歯類化石

始新世の哺乳類には、現在に子孫を残すことなく、絶滅してしまった種類が多くいます。熊本県の始新世の地層から見つかった化石の一つは、頑丈な下顎骨の一部で、第二大臼歯と第三大臼歯がついていました。その化石は「裂歯類」という絶滅した草食獣のもので、長さ約35cmほどの頭骨を持つ大型の種類です。大型の裂歯類化石は中国と北米大陸からも知られていましたが、熊本県のもは新しい種類の裂歯類であることが分かりました。私たちにあまりなじみのないこの種類の哺乳類は、上下の顎に2本ずつの長い切歯があり、頬の歯は激しいすり減りに耐える長い歯（高歯冠歯）となっています。さらに、北米で発見された大型裂歯類の化石からは、この種類の動物が短い首と熊のような手足を持っていたことが明らかとなっています。この様な裂歯類の特徴は、現在の草食獣の仲間には見られないものですが、当時の暖かい環境で繁茂した植物を食べるのに適応した初期哺乳類の姿を教えてください。

九州からは裂歯類の他に、原始的なバクの仲間や、汎歯類と呼ばれるカバのような大型草食獣も発見されています。これらの哺乳類たちは、後におこった環境の変遷とともに次第に姿を消してゆきました。

(宮田和周)



九州の古第三紀の地層

## 博物館バックヤード ..... 酸処理室 .....



化石のクリーニングには、大きく分けて2つの方法があります。一つは石を削り取る物理的な方法で、たがねやエアスクライバーなどを使う作業です。もう一つは、薬品で化学的に処理するやり方です。簡単に言えば、岩を溶かすのです。岩石の性質によって使う薬品はちがいますが、しばしば酸が使われます。化石自体が溶けてしまわないように処理をして、周りの岩石だけを溶かします。時間はかかりますが、きれいに化石を取り出すことができます。酸処理室は、このような作業のための部屋です。

酸処理室には、風呂桶大の処理槽があります。これにはキャストがついてい

て移動させることができ、大きくて重い標本でも、天井に備え付けられたチェーンブロックと合わせて扱うことができます。逆に、肉眼では見えないほど小さな化石を取り出すためにも、酸が使われます。なお、酸の中には取り扱いが危険なものも含まれているので、万が一に備えて、壁には緊急用のシャワーが取り付けられています。

また酸処理室は、小型の動物の解剖にも使われています。化石、とくに脊椎動物を研究するには、しばしば現在生きている動物の骨とそれに関連する筋肉などを調べる必要があります。解剖は研究の重要な要素となります。部屋の床には排水溝があり、解剖作業に伴う汚れを洗い流すことができます。解剖設備としては、解剖台のほかに、メス、鉗子、解剖刀、ピンセット等の道具、それら載せるカートなどがあります。(一島啓人)



## イチョウ(現生)

(*Ginkgo biloba* L.)

当館2階の生命史展示コーナーには、化石との比較のため、現在の植物を透明なアクリルで包埋した標本が数点展示されています。そのひとつに写真のイチョウがあります。この標本は福井県の西端に位置する高浜町六路谷の杉森神社境内に植えられたイチョウを町郷土資料館の協力を得て採集したものです。実は、このイチョウは「オハツキイチョウ」として全国的にもその名が知られたイチョウの木なのです。オハツキイチョウとは、普通、長い柄の先端につく実(胚珠)が、葉の上に直接くっつくという風変わりなイチョウで、全国的にもそれほど多くありません。実際に「オハツキイチョウ」の木を観察すると、確かにお葉付きのものが多いのですが、普通のものもあり、当館では“お葉付き”は残念ながら写真での展示になりました。

イチョウの仲間は、長い植物の歴史でもかなり早く、古生代ペルム紀から化石が知られ、いわゆる「生きている化石」の代表とされます。イチョウには、生殖の際、シダ植物のように運動することのできる精子が認められるなど、他の比較的新しい裸子植物の仲間が進化の過程で失った特徴が残されており、お葉付きの実もそのような特徴の一つと考えられることがあります。(矢部 淳)



## 始祖鳥

(アーケオプテリクス : *Archaeopteryx*)

アーケオプテリクスは、ドイツから19世紀に初めて発見されて以来全部で6体発見され、現在のところ2種確認されています(アーケオプテリクス・リトグラフィカとアーケオプテリクス・ババリカ)。これらの化石は、鳥が小型獣脚類恐竜から進化した事を裏付けた貴重な証拠の一つとして知られています。ほとんどの標本は非常に良い保存状態で発見され、羽毛が化石として残されています。鳥の特徴のみならず、恐竜の特徴(歯や長い尻尾など)も持っています。アーケオプテリクス発見以来、鳥の起源は恐竜にあると考えられてきましたが、近年の中国から報告されている「羽毛恐竜」によって、その仮説が確かなものになってきました。

1861年に「ロンドン標本」が研究され初めてアーケオプテリクスと命名されましたが、1855年には「ハーレム標本」がすでに発見されていました。もっとも、この標本は1970年にジョン・オストロム博士によって再記載されるまで、翼竜の化石だと思われていたのです。また、アーケオプテリクスとされていた「ゾルンホーフエン標本」は、2001年の再研究により新属新種である事が分かり「ウェルンホフェリア・グランディス」と命名されました。(小林快次)



## 教育普及活動

### コンピュータ教室 — 恐竜シールをつくらう —

日時：4月7日(日) 13:00~15:00

恐竜を通して博物館やコンピュータに親しんでもらおうと、4歳から小学3年生までの親子13組に恐竜シールづくりに挑戦してもらいました。

当館が用意した恐竜や動物の絵のデータや文字を組み合わせ、最後にシール用紙に印刷していきます。コンピュータをさわるのは初めてという子供さんも、何回もという子供さんもいましたが、シールづくりという体験に親子で協力してすごく真剣に取り組んでくれました。参加者は恐竜の絵の入った名前入りシールなどの作品を完成させていました。また今回の教室をいかして家でもシールづくりを楽しんでいる親子もいるようです。(千秋利弘)



### 恐竜ふれあい教室 — 恐竜折り紙教室 —

日時：4月21日(日) 13:00~15:00

恐竜ふれあい教室は4歳から小学校3年生までの親子を対象に実施しており、毎回多くの親子が参加しています。

今回は、プテラノドン、ティラノサウルス、エラスモサウルスの折り紙を折る「恐竜折り紙教室」を実施したところ、県外からの参加者も含めた57名の参加者がありました。折り紙が完成すると歓声を上げて喜ぶ光景も見られ、親子で協力し合い楽しみながら、かわいい恐竜折り紙を完成させていました。(笹木尚美)



# 行事案内(2002年7月～2002年12月)

所定の方法にて、行事名・住所・氏名・電話番号・年齢を、博物館までご連絡ください。  
開催日の一か月前から受付開始で、定員に達し次第、締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の時は抽選となる場合があります。

## 博物館講演会

場所/講堂 対象/一般 申し込み不要です。  
博物館講演会「世界の恐竜を訪ねて」  
日時/8月18日(日) 14:00～15:30  
講師/富田幸光(国立科学博物館古生物第三研究室)  
未だ続いている杉山川の恐竜発掘事業  
日時/9月1日(日) 14:00～15:30  
講師/濱田隆士(当館館長)

## 博物館セミナー 基礎コース

場所/研修室 対象/一般 申込/電話、FAX、E-mailにて  
アジアと日本の恐竜  
日時/7月28日(日) 13:00～14:30  
内容/アジアと日本の恐竜化石の発掘のようすや最新の学説について紹介します。  
講師/東 洋一  
温泉でつくられたオパールと珪化木  
日時/8月11日(日) 13:00～14:30  
内容/珪化木ができる過程とオパールとの関係を紹介しします。  
講師/赤羽久忠(富山市科学文化センター学芸課長)  
白山火山 噴火から340年  
日時/9月8日(日) 13:00～14:30  
内容/活火山である白山火山の生い立ちやこれからの白山について紹介します。  
講師/東野外志男(石川県白山自然保護センター次長)  
貝化石群集  
日時/10月13日(日) 13:00～14:30  
内容/貝化石のでき方や、群集解析の方法などを紹介します。  
講師/野田芳和  
福井地震と地殻変動  
一福井平野周辺の活断層と地形形成について考えるー  
日時/12月8日(日) 13:00～14:30  
内容/山はどうしてできたのでしょうか?その答えの一つを福井地震の時の地殻変動から探します。  
講師/山本博文(福井大学地域教育学部教授)  
実習講座 脊椎動物化石研究法  
日時/11月10日(日) 13:00～15:00  
内容/いろいろな動物の骨格や化石をもとに、脊椎動物化石の調べ方について学びます。  
担当者/一島啓人

## こども自然教室

場所/実習室 対象/小4～中3 20名 申込/往復ハガキ、E-mailにて  
葉脈標本をつくろう  
日時/7月14日(日) 13:00～15:00  
内容/葉を薬品処理して、きれいな葉脈のしおりを作ります。  
担当者/矢部 淳  
古生物を復元しよう  
日時/8月4日(日) 13:00～15:00  
内容/いろいろな絶滅動物を絵で復元します。  
担当者/一島啓人  
恐竜の復元画をかこう  
日時/9月29日(日) 13:00～15:00  
内容/博物館の中から自分の好きな恐竜の骨格化石を選んで、復元画を描きます。  
講師/山本 匠(恐竜画家)  
化石研究の準備をしよう  
日時/11月24日(日) 13:00～15:00  
内容/自宅でできる貝化石等のクリーニングと標本の整理、地質情報のまとめ方を学習します。  
担当者/宮田和周  
石を調べよう  
日時/12月21日(土) 13:00～15:00  
内容/顕微鏡などを使って、石の内部がどうなっているのかを調べます。  
担当者/佐野晋一

## 地学指導者実技講座

場所/実習室 対象/教師および社会教育関係指導者など20名 申込/往復ハガキ、E-mailにて  
野外実習「地層の見方、岩石・化石標本採集」  
日時/8月28日(水)  
内容/野外での岩石や化石、地層など教材収集や授業での活用の仕方を学びます。  
担当者/後藤道治、野田芳和、渡辺哲夫  
室内実習「授業で使える岩石や化石の教材作成」  
日時/10月26日(土) 10:00～15:00  
内容/ピール法を用いた木材化石プレパラート作成と岩石教材の紹介および活用  
担当者/寺田和雄、宮田和周

## コンピュータ教室

場所/実習室 対象/4歳～小3の親子20組 申込/往復ハガキ、E-mailにて  
コンピュータで恐竜をかこう  
日時/9月22日(日) 13:00～15:00  
内容/恐竜の絵をコンピュータでかきます。  
担当者/千秋利弘  
恐竜年賀状をつくろう  
日時/11月30日(土) 13:00～15:00  
内容/恐竜の絵を貼ったり文字を組み合わせて年賀状をつくります。  
担当者/千秋利弘

## 恐竜ふれあい教室

場所/実習室 対象/4歳～小3の親子20組 申込/往復ハガキ、E-mailにて  
化石のペーパーウエイトづくり  
日時/7月27日(土) 10:00～15:00  
内容/化石のはいた岩石を加工して、オリジナルのペーパーウエイトをつくります。  
担当者/後藤道治  
恐竜画教室  
日時/10月20日(日) 13:00～15:00  
内容/いろいろな恐竜の特徴をつかんで、恐竜のイラストに挑戦します。  
講師/ヒサクニヒコ(恐竜漫画家)

## 野外観察会

対象/一般 40名 申込/往復ハガキ、E-mailにて  
福井県和泉村の地層観察  
日時/11月3日(日)  
内容/福井のおいたちを語る、さまざまな岩石・地層・化石を観察します。  
場所/福井県和泉村ほか



## ダイノメイト(後援会より)

ダイノメイト会員の更新を受け付けています。昨年まで会員であった多くの皆様は既に更新をすまされましたが、まだお忘れになっておられる方もあるようなので、お確かめになられて更新の手続きを取って下さるようお願いいたします。7月20日～21日の勝山市北谷の恐竜発掘現場における化石採集会は、定員をはるかに超えましたので抽選で参加者を50名に決めさせて頂きました。「カナダ恐竜体験の旅」は、申し込まれた方は全員参加していただける予定になっています。自然は私たちに様々な感動と生きる喜びを与えてくれます。夏休みを大いに自然の中で過ごしてみようではありませんか。

ダイノメイト会員申し込み先  
〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾51-11  
特定非営利活動法人 福井恐竜博物館後援会  
TEL&FAX 0779-88-8730  
年会費 個人会員 2,000円、家族会員 3,500円

## 編集後記

5月26日、来館者が100万人を突破しました。これも、恐竜博物館を愛してくださり、足を運んでくださった多くの皆様のお陰と感謝しております。100万人というのは、1つの通過点にすぎませんが、2年程前に誕生した当館が、博物館として少し成長した証のような気がします。

100万人のお客さんがいれば、100万通りの見方があり、100万通りの感想があるかと思えます。100万回の感動がここにあったことを願いつつ、次の200万人、300万人突破にむけて、さらに成長し続けていきたいと考えております。

(渡辺哲夫)